平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人東京農工大学

１ 全体評価

東京農工大学は、農学、工学及びその融合領域における自由な発想に基づく教育研究を通して、課題解決とその実現を担う人材の育成と知の創造に邁進することを基本理念としている。第３期中期目標期間においては「世界が認知する研究大学へ」を学長ビジョンとして掲げ、①世界と競える先端研究力の強化、②国際社会との対話力を持った教育研究の推進、③日本の産業界を国際社会に向けて牽引、④高度なイノベーションリーダーの養成、に積極的に取り組み、卓越した成果を創出している海外大学と伍して、全学的に卓越した教育研究、社会実装を推進することを目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、国際的に活躍できる理工系人材を育成するための９年一貫プログラムとして「グローバルプロフェッショナルプログラム」を開始するとともに、融合光科学という新しい学術領域の創生を目指して４つの分野をまたぐ国際共同研究を実施し、その研究成果を集約する拠点を設置するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第３期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成28年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

○　既存の組織である「グローバルイノベーション研究機構」を発展させた「グローバルイノベーション研究院」において、重点的に取り組む分野である食料・エネルギー・ライフサイエンスに関する世界各国の外国人研究者を延べ51名（対前年度比10名増）雇用・招へいし、所属教員と研究チームを組織して国際共同研究を推進した結果、本研究院における国際共著論文数は、70報（対前年度比28報増）となっている。（ユニット「国際社会で活躍できる理系グローバルイノベーション人材を養成する世界水準の教育研究を推進する取組」に関する取組）

２ 項目別評価

＜評価結果の概況＞	特　筆	一定の注目事項	順　調	おおむね順調	遅れ	重大な改善事項
（１）業務運営の改善及び効率化			○			
（２）財務内容の改善			○			
（３）自己点検・評価及び情報提供			○			
（４）その他業務運営			○			

Ⅰ．業務運営・財務内容等の状況

（１）業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善　②教育研究組織の見直し　③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載９事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、第２期中期目標期間評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されているほか、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ KPIの達成に向けたデータ収集・分析

客観的なエビデンスに基づき明らかになった大学の強み・特色を生かして大学の機能強化を図ることを目的としたIR機能の活用方針を策定し、その活用方針に基づいてKPIの目標数を設定するとともに、進捗管理を行った結果、大学が設定したKPIの一つであるWeb of Science収録論文数が713報（対前年度比11報増）となるなどの成果をあげている。

（２）財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加　②経費の抑制　③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載４事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 研究者へのインセンティブ付与等による外部資金比率（共同研究）の上昇

大型共同研究費獲得者に対する、産官学連携スペースの優先的使用権等のインセンティブの付与や､教授会での大型競争的資金の情報提供等の取組を積極的に推進した結果、平成28年度における共同研究に係る外部資金比率は約4.4%となっている。

（３）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実　②情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載２事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

（４）その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等　②安全管理　③法令遵守等　④情報システムの整備充実と運用改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載７事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成27年度評価及び第２期中期目標期間評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されていること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ．教育研究等の質の向上の状況

平成28年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 国際的に通用する理工系人材の育成を目指した教育プログラムの構築

国際的に活躍できる理工系人材を育成するため、９年一貫の「グローバルプロフェッショナルプログラム（GPP)」を開始している。同プログラムでは、気候変動・エネルギーをテーマとした思考構築プログラムや、海外の大学においてワークショップを実施する海外派遣プログラム等、専門力・思考力・コミュニケーション力を高めるためのプログラムを実施している。

○ 新たな学術領域の創成に向けた異分野融合研究

融合光科学という新しい学術領域の創成を目指し、海外の著名な研究機関（ジョージア工科大学（米国)、デューク大学（米国）等）と４つの分野（物理工学・機械工学・生命工学・有機化学）の若手研究者を派遣・招へいする国際共同研究を行うともに、共同研究による多分野の研究成果を東京農工大学に集約するための拠点として「融合研究ラボ」を設置している。

○ 産学連携の推進に向けた機能強化

海外との共同研究等において、研究者個人での対応が困難な研究に関する諸問題に対応するための学内窓口の一元化や、年俸制の業績評価における研究業績等の重点評価等を実施しており、共同研究をはじめとした産学連携の推進に向けた機能強化を図っている。